

# 前回の審議会における意見の整理

## 議題1：1章 経営視点（案）について

経営視点	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
全般	1	全体	自治体が推進する「方針」を市民にどのように届き、どう感じているのかを考え、提供する側がわかりやすく正しい情報を発信していくことが必要	計画はアウトカム（受益者側の意識や行動変容）に主眼を置き、市の活動（アウトプット）を提供することで、相手（市民）の意識や行動、社会の変容（アウトカム）を促す。市民にも可視化し、行政活動の実効性を向上するよう、内容は第3章に記載
経営視点の考え方	2	P3	優先順位付けのプロセス	第3章の計画の実効性において記載
	3	P4	天秤の図の右側は、「経営視点を重んじ、市民の満足度を軽んずる」ように見える	<b>図の変更</b>
	4	P5	P5「経営層が持つ経営視点」及び「職員がもつ現場視点」と、P3「経営視点は市役所の組織全体が持つことが重要」は矛盾。「経営層が統合できる経営視点」「職員が提起できる現場視点」などと表現を工夫	<b>表現について変更</b>
	5	P4,5,6	顕在的ニーズだけでなく、潜在的ニーズへの対応	潜在的ニーズを包含することを意図していたが、P5及びP6にて <b>具体的な文言を変更</b>
新たな社会要請	6	P9,10	SDGsの記載が上位の概念的なため、具体的なイメージが可能な内容に工夫	SDGs自体が広範の概念であり、その概念（考え方）をどの分野でも活用・応用できるため、経営視点の新たな社会要請に位置付け
	7	P12	「市民」を「市民および企業市民」としてはどうか	「市民」が表す意味の範疇に企業市民も含まれており、他の記載も含めて統一
経営資源の活用方針	8	P15	P4「柏市の役割・責務」にある「市民の満足度を上げること」をP15に追加	IVの行政運営の方向性には、前項までの内容を踏まえているため、本項では経営資源の活用にフォーカスした
	9	P16	○方針1「生産性・効率向上」→「選択と集中による経営資源の適正配分と生産性・効率向上」 取組1「オンライン申請の拡大」→「オンライン申請の基盤整備と業務改善等による行政手続きの利便性向上や運用の省力化」へ変更 取組2「全庁的な業務効率化の推進」に （▷業務プロセス分析による全庁的な業務の効率化、▷業務の担い手の最適化）を追加	市民サービスとしての利便性向上と庁内における業務の効率化や省力化として、取組を分類 <b>取組1 市民サービスの向上（▷オンライン申請の拡大 ▷申請手続の簡素化）</b> <b>取組2 業務効率化の推進（▷業務へのICT（AI・IoT）活用 ▷業務手法の省力化・効率化）</b>
	10	P16	「方針2 健全財政の維持」「取組1 公共施設等の最適化」→「公共施設マネジメントの推進」	「公共施設マネジメントの推進」は「公共施設等の最適化」と「市保有財産の有効活用」に分けて記載
	11	P16	「方針2 健全財政の維持」へ「受益と負担の適正化」の追加	「I-2 柏市の役割・責務」にて記載（P4）
	12	P16	「方針2 健全財政の維持」へ「民間活力・ノウハウの活用」の追加	「方針4 官民との連携にて記載」（P17）
	13	P16, 17	経営資源の活用方針における具体的手段の記載について （例）AIやIoT, フレックスタイム, フリーアドレス, 行政コストの削減	経営視点の基軸でもある、時勢に応じた最適手段を考察・実施していくため、本項には具体的な手段まで掲載せず、手段の考察や実施及びその進捗管理については第3章にて対応
	14	P16, 17	方針に「発信力と広聴力の向上」を追加。 例）「広報力の強化」「広聴力の向上」「シティプロモーションの推進」	本項では、ヒト・モノ・カネ・データに関する活用方針とした。発信力の強化及びシティプロモーションは、SDGsの活用方法として、SDGsの視認性を活かした情報発信の強化をまとめる。広聴力の向上は、ツールとしては方針1のICT化に包含し、スキルとしては方針3に包含
	15	P16, 17	「広域連携の推進」の追加	方針4の包含。名称を <b>【多様な主体との連携】</b> に変更
16	P17	「方針4 官民との連携」に「地域力の向上」（▷シビックプライドの醸成、▷地域人材の育成）を追加	分野別方針「4 地域のちから」において記載	

## 議題2. 2章 分野別方針について

### 分野1 こども未来

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
こども未来	1	全体	子育て環境や支援の充実	「こども未来」分野が目指す状態とも合致。より家庭と地域が連携し、社会全体で子どもを育む環境づくりを目指す。特に学校教育分野では「地域とともにある学校」を実現できるよう進める。
	2	P5	こどもの運動不足への課題対応	課題認識として捉えている。具体的な手段については「保育所保育指針」「柏市教育振興計画」等の部門計画の中で位置付けて取り組む。対応方針に「体」につながる言葉を追記。 ⇒対応方針1-3 「 <b>健やかな体</b> と豊かな心の育成を目指し、他者を認め合い、多様性を尊重する意識の醸成を図ります。」
	3	P3	「目指す状態」に「子育て世代に選ばれるまち」を追加。 「現状認識と課題把握」に柏市人口ビジョンに記載された3つの課題のうち「出生率が低い」、「子育て世代の流出」を追加し、近隣他市との差別化や経済的支援拡充に取り組む。	第五次総合計画の重点目標1で生産年齢人口の維持・定着を目指すこととして掲げている。分野に特化せず、横断的な取組により、子育て世代に選ばれるまちを目指す。具体的手段は部門計画の中に位置付ける。
	4	P3	「目指す状態」にある「すべての児童が安心して学習できる教育環境」を具体的に記載し「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築された環境」へ変更	障害の有無だけでなく、家庭的な背景のある児童生徒、外国籍の児童生徒等、さまざまな状態の子どもたちを包括する意図を持って表現したが、具体的な記載を追加。なお、文部科学省が示す「インクルーシブ教育システム」は、部門計画の中で位置付けを検討。 ⇒対応方針1-4 「現在及び未来の児童生徒が、 <b>性別や人種、経済状況、障害等の個人の状況に関わらず</b> 、安全で安心して学び合え、過ごせる、より良い教育環境を整備します。」
	5	P3	インクルーシブ教育における「就学相談・就学先決定の在り方に係る制度改革の実施、教職員の研修等の充実」や「障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備」、「多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進」を追加	いずれも重要な取組であるため、柏市教育振興計画の中で、具体的な取組とともに位置付けを検討
	6	P5	対応方針1-1に「グローバル社会・情報社会の急速な進展に対応できる教育の推進」を追加	目指す状態の一点目に記載している「生涯にわたり学び続ける力を身につけられる」は、これからの社会、つまりグローバル社会・情報社会等を生きる子どもたちに必要な力として表現したもので、意見内容を包含
	7	P5	大人の視点だけでなく、こども自身が育つ視点が必要。こどもたちが自発的に考え、自分で判断していくことのできる人間を育成しようという要素が必要。「 <b>成育過程支援</b> 」と表現し、父母の出会い・子供の誕生・幼少期・学童期の段階ごとに考える目線を持つ	子どもの育ちは各段階を経ていくことから、その段階・立場ごとの視点を持つ必要。子どもの視点や子ども自身が育つ視点は不可欠。 ⇒対応方針1-2 「 <b>事業実施にあたっては、成育過程に応じてこどもの育ちの視点を持って取り組みます。</b> 」を追加
	8	P5	対応方針について、「子育て」があつての「教育」なので順序を逆にすべき	前期基本計画においては、学校教育及び教育環境の充実を特に重点的に実施する施策としたため「教育」「子育て」の順とした。後期基本計画では計画書に方針のみを記載することから、市民目線に合わせて、産まれてからライフステージに沿った順序に修正
	9	P6	分野の部門計画に「学校教育部」がない	教育委員会で策定している教育振興計画の策定課が「生涯学習部教育総務課」のため。主な関連部門計画を「課名」から「部名」に変更し、教育振興計画を「 <b>学校教育部・生涯学習部</b> 」と併記

# 議題 2. 2章 分野別方針について

## 分野 2 健康・サポート

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
健康サポート	1	P9	パンデミック感染症等、地球規模になってしまった。予防や危機管理でのグローバルヘルスカバレッジも難しい中で、柏市の保健システム・地域医療の充実を更に図るべき	対応方針2-2医療・介護のうち、2つ目「地域における課題や特性～推進します。」に続けて「 <b>パンデミック（感染症の世界的な大流行）の発生等、社会的に大きな影響のある事態にそなえて、日頃からの連携の強化に努め、体制づくりを進めます。</b> 」を追加
	2	P9	1次予防に加え、社会環境の整備による健康づくりにより、健康格差の縮小に取り組む	健康格差の縮小の2-1の5つ目に「 <b>生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等を予防する取組みに加え、社会環境の整備による健康づくりにより、健康格差の縮小に取り組みます。</b> 」を追加
	3	P7, 9	「目指す状態」または「対応方針」に「医療ツーリズムの強化」、「生涯スポーツの推進」、「高齢者の居場所づくり」の視点を追加	対応方針2-1の6つ目「子どもの頃からの望ましい生活習慣の定着に関する取組み」の中に、運動や食生活も包含。「高齢者の居場所づくり」や様々な活動への参加促進は重要な視点。 ⇒対応方針2-1の6つ目に、「 <b>・・・高齢者の居場所づくり</b> やフレイル予防に関する取組み等、健康に無関心な層も含めたあらゆる・・・」を追加
	4	P9	健康づくりの推進に留まらず、健康寿命延伸産業の創出という視点で、域内企業間における医工連携や、新たなサービスの創出、雇用創出や企業投資の促進につなげることも追加	AI・医工連携・地域資源を活用した産業・観光の発展を目指し、千葉県と共同で地域未来投資促進法に基づく産業振興の基本計画を作成。部門計画で取組を進める。
	5	P9	EBPMの観点から、基幹統計やレセプト等のオープンデータを多面的に活用・分析し、健康問題やそれに至る原因等の把握、生活習慣病予防対策につなげることを記載。また、健康寿命延伸対策として、ICTを活用した科学的根拠に基づく質の高い保健指導の視点を追加	市が保有する様々なデータを活用し、EBPMの視点を取り入れた取組の必要性は高い。 ⇒対応方針2-1の6つ目に、「 <b>・・・あらゆる人に対して、健康問題やそれに至る原因を把握するため、各種データを活用・分析し、科学的根拠に基づいた効果的かつ効率的な予防・健康づくり事業に・・・</b> 」を追加
	6	P9	病気があっても治療、ケアをしながら、通常の世界生活（仕事も日常生活も）ができるよう、支援の環境を整えることが必要	「病気や障害があっても、その人らしく生活することができる」環境整備は、「高齢者いきいきプラン21」や「ノーマライゼーションかしわプラン」でも重要な取組に位置付けており、必要な視点。 ⇒対応方針2-2の2つ目に、「 <b>予防はもとより、病気や障害のある方もケアを受けながら日常生活を営める環境整備を含め、地域における課題や特性を・・・</b> 」を追加
	7	P9	「社会的処方」という考え方が重要。市民活動や生涯学習のコミュニティを処方することで社会的孤立を防ぐ取組み	「対応方針2-3 包括的支援」の3つ目に、同様の考え方について記載し、重要な考え方と認識
	8	P9	健康分野は事業ごとに縦割りに陥りやすい。健康・長寿・ヘルスイジング（心身ともに鍛える）・アクティブエイジング（高齢者の社会参加）などを横断的に実施することが必要	対応方針2-1にあるよう、庁内横断による推進体制を構築する
	9	P9	コロナ禍により外出しないことで、健康被害がエビデンスベースで確認されている。これを機にIT技術を取り入れ、従来のコミュニティビジネスだけでなく、ハイブリッドを前向きに推進することが必要	特定健康診査の受診勧奨に人工知能（AI）の活用、特定保健指導の遠隔面談の導入、健康講座等の映像提供等、効果的・効率的な保健事業の推進に当たり工夫し取り組んでいる。柏市でもフレイルチェックの結果などから、フレイルリスクが高くなっている状況を把握し、喫緊の課題と認識しており、新しい生活様式の中で、より効果的な取組について検討。

# 議題 2. 2章 分野別方針について

## 分野 3 経済・活力

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
経済・活力	1	P11,13	「目指す状態」または「対応方針」に「観光コンテンツの見直しと観光情報の共有強化」、「交通インフラを利用した集客機能の強化」、「都市空間の高質化」、「時流にあった事業の強化」、「戦略的シティプロモーション・シティブランディングの推進」、「文化事業の強化と収益化」、「環境まちづくりの強化」の視点を追加	現在も取り組んでいる内容であり、具体的な手段についてはそれぞれの部門計画に位置付け推進する。 「都市空間の高質化」「時流に合った事業の強化」については、公共空間の整備のみでは実現ができないことから、対応方針3-1の2つ目「公・民・学の連携によるまちづくりの推進」により、特に都市拠点において先進的に進めることで、市内に連鎖していくことを目指す。ただし、「都市空間の高質化」について追加。 ⇒対応方針3-1の3つ目に、「 <b>多様な商業や飲食店の集積や、都市空間の高質化など、街の魅力創出と発信を行い、柏駅周辺への来街者の増加を促します。</b> 」を追加。
	2	P11,13	柏市地方創生総合戦略および柏市が参画するUDC 2が策定した柏セントラルグランドデザインを鑑みて、「目指す状態」に「定住人口や市内就労人口の維持向上が図られた状態」を追加し、かつ対応方針3-3として「街なか居住を含む定住促進と企業誘致」を追加	「企業誘致」については、従来型の大規模工場の誘致にとどまることなく、社会情勢や人の流れの変化に対応した事業（広大なオフィスを必要としないIT系企業の誘致、テレワーク等に対応したコワーキングスペースに関する情報の収集・提供、柏商工会議所や柏市沼南商工会と連携した創業支援）など今後のあり方を検討。 「定住促進」や「定住人口の維持向上」については、生活に密着した民間施設の充実が定住の大きな要因の一つとされていることから、関係部署連携のうえ、引き続き着実に取り組む。 「街中居住の推進」については、一般的な郊外から駅周辺に居住させるコンパクトシティの方針として受け取られる可能性があることから、立地適正化計画で位置付ける既存の市街化区域を居住誘導区域とする方針との整合性などから、分野別計画の方針として整理する。 柏駅周辺のグランドデザインにおける、商業プラスこれから増えることが予測される住居空間について面積の限度を定めた方針についても、対応方針3-1の2つ目「公・民・学の連携によるまちづくりを推進する」に含まれており、柏駅周辺の関係者による共通方針であるグランドデザインにより、まちづくりを進める。
	3	P13	対応方針3-2に、交流による新産業の創造を念頭に、「産業の育成と支援」および「学術・研究領域との連携」を追加	AI・医工連携・地域資源を活用した産業・観光の発展を目指し、千葉県と共同で地域未来投資促進法に基づく産業振興の基本計画を作成。部門計画で取組を進める。
	4	P13	大学等の研究機関と農家が連携し、農業における生産性の向上や農産物の品質向上に資するような、ICTなどの先端技術を活用した「スマート農業」の開発・研究プロジェクトの視点を追加	地域未来投資促進法に基づく産業振興の基本計画においても、第4次産業革命関連分野や、手賀沼や道の駅しょうなん等の観光資源を活用した農商工連携・地域商社の創出について、「生かすべき自然的、経済的又は社会的な観点からみた地域の特性」とし、特性を活かした産業振興にも取り組む。 なお、令和3年度からの柏市都市農業振興計画に「スマート農業、機械化の推進」を取組として位置付ける予定。
	5	P13	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスなどの企業支援もあわせて力を入れ、各分野の横断的な取組が必要	コミュニティビジネスやソーシャルビジネス等、様々なつながりが重要となる新たなビジネスの創出については、インキュベーションマネージャーによる企業間マッチングをはじめとする同業種・他業種連携を進めている。 柏商工会議所に加えて、今年度から、沼南商工会においても、IM設置に向けた準備を行っており、今後もこうした各分野を横断した取組を支援。

# 議題 2. 2章 分野別方針について

## 分野 4 地域のちから

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
地域のちから	1	P17	行政の透明性や信頼を高めるとともに、市民との協働を深めていくためには、市民が知りたい情報をそれを必要とする市民に分かりやすく伝えることが必要。効果的な情報発信に向けて「広報力の強化」、市民ニーズを捉える観点から「広聴力の向上」を追加	効果的な情報発信に向けての広報力、市民ニーズをとらえる広聴力の強化は必要。職員の資質、能力面として、経営視点の方針3「人材・組織づくり」に包含
	2	P17	地域力の向上のためには、その担い手となる人材の発掘や育成が重要。そのための手段は必ずしも生涯学習だけではないと思うので、対応方針4-1に記載を盛り込む	生涯学習活動から得られる生活の変容による充実感を、社会活動への参加につなげることで、地域の担い手の発掘や育成を進めていく。 ⇒対応方針4-1の3つめに、「 <b>地域活動に参加することで充実感が得られ、そのことが地域の担い手としての活躍につながっていく取り組みを進めます。</b> 」を追加
	3	P17	共生社会について、多様性を認め、支援していくことが主体となっている。地域力を高めていくには、地域住民を地域に入り支援している在宅介護職種との連携も一つの方法	地域共生社会の考えの基、こども、高齢者、障害者などの対象者や生活機能ごとの社会保障を超えて、地域社会全体を支えていくことが、これまでも増して重要となっている。すでに地域包括支援センターと連携していることから、在宅介護職種の皆様も地域を支える大事なパートナーとして、連携を推進していく。 ⇒対応方針2-2の2つ目に、「 <b>推進するとともに、在宅介護職種との連携により地域力の向上を目指します。</b> 」を追加
	4	P15,17	相手にどのように伝わるかが特に重要であり、提供する側がわかりやすく正しい情報を発信していくことが求められているため、いかに市民と課題感を共有するかが大事	相手に伝わるよう分かりやすい情報を発信していくこと、市民と課題感を共有することは大変重要と認識。計画全体にかかわるものであることから、「地域のちから」の分野別に限らず、大きな視点に入れるか検討
		P15	ソーシャルキャピタル、社会関係資本、人とのつながりがあらゆる分野で大事になっている。市への愛着を持つには、市の中に信頼できる人がいることや信頼できるコミュニティがあることが重要。いかにして柏市のコミュニティやまちの動きに市民自身が参画する流れをつくれるかが大事。	社会関係資本の重要性を認識しつつ、多様な世代が多様なかたちでつながりながら、新たな発想を出し合える仕組みづくりを支援する中で、地域での世代間の交流を促進していく。また、行政等の分野においても地区社協や教育機関等とのネットワーク型行政によりお互い補い合いながら地域づくりに貢献していく。 ⇒現状認識と課題把握の4つ目に、「 <b>町会等の地域活動の支援をしながら、社会関係資本を強くすることで、社会が抱える様々な分野の課題の解決につながる地域づくりを進めます。</b> 」を追加。
	P15	共生社会分野が弱い。将来を見越したまちづくりには大事な視点。	共生社会の視点は大変重要であり、性の多様性や国籍、人種に限らず、年齢、障害など、誰もが人の多様性を理解し、認め合う社会形成が必要。将来のまちづくりのために必要な施策を追記 ⇒対応方針4-2を以下のとおり変更 ・性の多様性を理解し、互いを尊重し合うことで、誰もが自分らしく活躍できる社会を目指します。 ・外国人を含む全ての市民が、国籍、言語、文化の違いを理解し、誰もが安心して暮らせる多文化共生社会の実現に取り組みます。 ・性別、国籍、人種、障害の有無に限らず誰もが互いに多様性を尊重し、交流活動や啓発活動を通して、共生できる環境づくりに取り組みます。	

## 議題 2. 2章 分野別方針について

### 分野 5 環境・社会基盤

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
環境・社会基盤	1	P19,21	交通機能の強化として、柏駅と柏の葉地域、柏駅と手賀沼エリアのそれぞれアクセス性の向上に資する内容を追加	対応方針5-3「道路インフラの整備」を掲げ、交通軸の強化も包括した方針。具体的な手段については、部門計画「柏市地域公共交通網形成計画」で柏駅と柏の葉地域、柏駅と沼南エリアを結ぶ公共交通軸の強化を掲げている。
	2	P19,21	安全とSDGsにもつながるユニバーサルデザインの観点から、市内各駅周辺におけるバリアフリー化の推進（例：特に柏駅東西をつなぐ3つの自由通路）を「目指す状態」や「対応方針」に盛り込む	対応方針5-2に指摘内容も包含。具体的な手段については、部門計画「柏市バリアフリー基本構想」において、各駅周辺を重点整備地区と定め推進。
	3	P21	「定住人口や市内就労人口の維持向上」を方針に追加 ※経済・活力分野と横断的に必要	「定住促進」は第五次総合計画の重点目標に掲げ、分野横断的に取り組む。分野5においては、「地域主体のエリアマネジメントの展開や市民・民間・大学などの連携により、様々な人が長く居住・滞在したくなるような魅力的な都市空間や住環境」を方針に包含。
	4	P21	立体的なゾーニングや街なかにおける居住環境を向上させるためのルールづくり等の追加	対応方針5-2「権利者や事業者がまちづくりの方針に基づき、自立した建替えや共同化等の事業が可能となるようバランスの取れた規制と緩和のルールを定めます」に内容を包含

### 分野 6 安全・安心

分野	項目	ページ	ご意見内容	計画への対応
安全・安心	1	p25	柏駅周辺の「客引き」に加え、Day One等パブリックスペースにおけるマナーの周知・改善など、風紀の向上についても追加	市民にとって大きな不安要因である客引きや振り込め詐欺の減少とした。パブリックスペースにおけるマナー違反については、引き続き柏警察署や市関係部署との連携により対応。
	2	p23,25	テロへの対策を考えておく	柏市国民保護計画（平成19年3月策定）の緊急対処事態への対処に沿って対応。なお、指摘事項については、国や県、自衛隊、公共交通機関やライフライン事業者等で組織する柏市国民保護協議会で共有を図る。